

平成27年度 農林水産省都市農村共生・対流総合対策交付金 共生・対流促進計画  
 <広域ネットワーク推進対策> 外国人旅行者向けの受入体制の構築事業

## 外国人旅行者を農山漁村で受け入れていくために ニッポン・グリーン・ツーリズム2015 東京セミナー 「インバウンド受入れの鍵は、地域を一体にする 着地型観光のマネジメント」

日時: 2015年7月7日(火) 10時~16時30分  
 会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 416室(東京都渋谷区)  
 企画・運営: NPO法人日本エコツーリズムセンター

日本本来の暮らしや自然を楽しむ農山漁村での体験交流活動、いわゆる<グリーンツーリズム>は、全国各地で取り組まれ、訪問者にとって付加価値の高い体験旅行として定着してきました。地域の魅力の再認識と資源の活用、雇用創出につながり、持続可能な地域社会づくりへとつながっています。

一方で、外国人旅行者(インバウンド)は着実に増えており、国の施策としても掲げられ、さらなる拡大が見込まれています。今後さらに多くの外国人旅行者が日本を訪れ、観光地以外へも訪れる人が増えることでしょう。日本の昔からの暮らしや文化、自然の残る農山漁村には、観光地にはない外国人を惹きつける魅力があります。

昨年度の取り組みから、インバウンド受入にはその地域でできる体験のみならず、地域全体で魅力を打ち出すコンセプトを明確に持つことや、地域内をつなぎ、持続的に経営していくマネジメント力の重要性が見えてきました。DMO(Destination Management Organization)と呼ばれる地域全体をマネジメントする組織や機能をいかに地域で育てていくかが求められていると受け止めています。

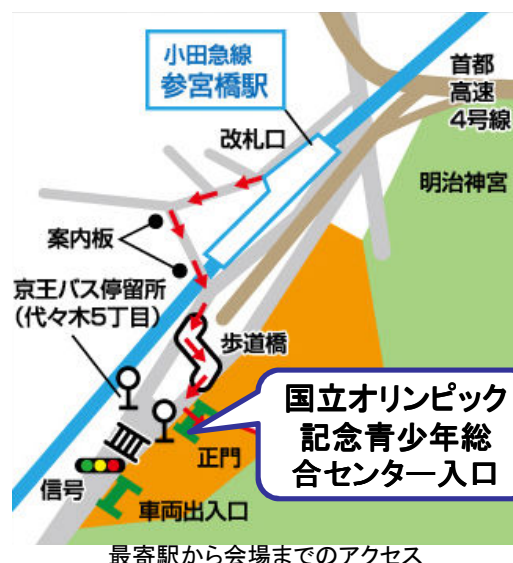
今回のセミナーでは、国内でいち早く地域を一体にするマネジメントに取り組んでこられた事例をはじめ、今後外国人旅行者を受入れるにあたって留意すべきこと、取り組むべきことを、実践されてきた講師からうかがっていきます。

### ◎インバウンドの現状を学ぶ

増加の伸びが著しいインバウンドの現状について、日本政府観光局(JNTO)より最新の状況と傾向をうかがいます。加えて、日本を訪れる外国人が何を求めて各地を旅しているか、『日本人だけが知らない「ニッポン」の観光地』著者・水津陽子氏に詳しく事情をうかがいます。

### ◎地域一体のグリーン・ツーリズム 受入れマネジメント事例から学ぶ

地域を一体にするグリーン・ツーリズムの受入をマネジメントしてきた、長野県・信州いいやま観光局の柴田さほり氏、北海道宝島トラベルの鈴木宏一郎氏を講師に、先進事例の実際をうかがいます。



最寄駅から会場までのアクセス

## ニッポン・グリーン・ツーリズム2015 東京セミナー

【日時】2015年7月7日(水)10:00~16:30(受付開始9:30)

【会場】国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟416室

東京都渋谷区代々木神園町3-1 <http://nyc.niye.go.jp/?cat=3d6-1.html> 小田急線「参宮橋」駅より徒歩約7分

【参加費】無料(定員・先着100名)

【参加対象】グリーンツーリズムに取り組む自治体、地域協議会、観光協会、宿泊体験施設、NPO団体、地域おこし協力隊員など、現在グリーンツーリズムに関わる事業を企画・実施・コーディネートし、現在または今後、インバウンド受け入れを行ないたい団体・個人の皆さま

【お申込み・お問い合わせ先】お名前、住所、性別、住所、ご連絡先電話番号、所属団体・肩書き、メールアドレスを入力の上、ホームページからお申込ください。

事務局 日本エコツーリズムセンター TEL: 03-5834-7966 FAX: 03-5834-7972

ホームページ: <http://www.ecotourism-center.jp/> e-mail: [desk@ecotourism-center.jp](mailto:desk@ecotourism-center.jp)

\*このプロジェクトは農林水産省都市農村共生・対流総合対策交付金共生・対流促進計画(広域ネットワーク推進対策)外国人旅行者向けの受入体制の構築事業です。

### ニッポン・グリーン・ツーリズム2015 東京セミナー 講師

#### ◎基調講演スピーカー1 「外国人が望む観光コンテンツと受け入れ体制」

水津陽子氏(合同会社フォーティR&C代表/経営コンサルタント)

地域資源を生かした観光や地域ブランドづくり、地域活性化・まちづくりに関する講演、コンサルティング、調査研究、執筆などを行っている。

#### ◎基調講演スピーカー2 「長野県飯山で取り組む地域一体の着地型観光マネジメントの実践」

柴田さほり氏(一般社団法人信州いいやま観光局 営業企画課課長補佐兼統括係長)

1978年 愛知県名古屋生まれ。京都府立大学福祉社会学部卒業。名古屋大学留学生センターにて勤務後、国際子ども村(CISV)にボランティアリーダーとして参加。世界中の子供たちとの生活をとおして平和教育に携わる。その後、ワーキングホリデービザを利用してフランスに滞在。帰国後、インバウンド専門の旅行会社にて営業業務(ヨーロッパ、中南米担当)に携わる。2010年10月より農林水産省「田舎で働き隊」研修生として飯山へ移住。信州いいやま観光局・なべくら高原・森の家へ勤務開始。2013年より営業企画課配属。

#### ◎基調講演スピーカー3

「インバウンド観光の現状」

伊与田美歴氏(日本政府観光局 海外プロモーション部次長)

東京都出身。一橋大学法学部第三課程(国際関係)卒業。英国国立ハル大学大学院国際ビジネス法専攻課程修了。1994年、国際観光振興会(通称:日本政府観光局、JNTO)に入会。以来、国際コンベンション誘致センター海外誘致部、総務部企画調査課(次世代情報システム業務担当)、海外宣伝部観光情報システム室などを経て、2003年にJNTOロンドン事務所 次長に就任。2008年に海外プロモーション部欧米豪グループマネージャー(欧州担当)に就任。2015年4月、海外プロモーション部次長(全体総括及び欧米豪市場担当)に就任し、現職。

#### ◎パネルディスカッション

話題提供「京都府美山の取り組みから～地域が地域の魅力に気づくこと」

青田真樹氏(株式会社野生復帰計画)

兵庫県出身。20代は旅と教育の実践を目指して、(財)京都ユースホステル協会へ入職。旅をテーマとして、経験から学ぶための機会と場作りを青少年を対象に実践。総合旅行業務取扱管理者として旅行業務にも従事。2014年3月に退職し、現在は、京都・美山で株式会社野生復帰計画を中心に活動中。

話題提供「北海道宝島トラベルがしていること～インバウンドFIT向けのDMOサービス」

鈴木宏一郎氏(株式会社北海道宝島トラベル 代表取締役社長)

1965年北九州生まれ。北海道の体験型観光プログラムの検索予約サイト「北海道体験.com」創業。道内各地で観光まちづくり、インバウンドFIT(個人旅行者)送客を実施。同時に都市観光やレジャーと農村をつなぎ、野菜の収穫体験や農家民宿(ファームイン)などグリーンツーリズムを紹介している。観光庁観光地域づくりアドバイザー、北海道グリーンツーリズムネットワーク事務局長、農林水産省 6次産業化ボランティアプランナーも務め、北海道の農山漁村の魅力を国内外に伝えている。

#### ◎全体・パネルディスカッションコーディネーター

福井隆(NPO法人日本エコツーリズムセンター理事、東京農工大学)

三重県生まれ。日本の過疎集落の再生を地域の現場で研究・提言をし、多くの実績を挙げてきた地元学の伝道者として知られる。とくに、研究者が研究の成果を地域に残さない傾向に対して、「すべては地域に還元」を信条に全国をめぐる。農林水産省「農山漁村活性化人材支援バンク」コーディネーター。

## 日本エコツーリズムセンターとは？

「エコツーリズムで地域を元気にしよう！」を合い言葉に、エコツーリズム、地域活性化、環境教育の分野の第一線で活躍する実践者、研究者らが集まった全国ネットワークです。

エコツアーガイドや地域コーディネーターなどの人材育成、地域や事業者への支援を行うと同時に、獣害など地域社会のさまざまな課題の解決を目指した地域のニーズに合わせた多様な取り組みを行っています。

◇名称：NPO法人日本エコツーリズムセンター

◇所在：〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-38-5 TEL:03-5834-7966 FAX:03-5834-7972

◇代表理事：梅崎靖志、中澤朋代、森高一

◇設立：2007年8月22日

### ◇主な活動

(1)グリーンツーリズム外国人受入体制構築事業

農林水産省 農村共生・対流総合対策交付金「外国人旅行者向けの受入体制の構築」として、下記を行いました（予定を含む）。

- 全国セミナー（2014年度：東京、九州・阿蘇、北海道／2015年度予定：東京、京都、北海道）
- 全国研修会（2014年度：岡山倉敷市・早島町、長崎県小値賀町、北海道鹿追町／2015年度3か所予定）
- 外国人受入検証とモニターツアー（2014年度：北海道上富良野町、高知県四万十市・四万十町、山梨県南アルプス市、千葉県神崎町、京都府美山町、熊本県阿蘇市／2015年度5か所予定）
- 受入れ体制等に関する調査・分析及び情報発信（2015年度予定）

(2)人材育成

エコツアーガイドや地域コーディネーターなど地域でエコツーリズム普及の担い手となる人材を育成します。複雑化する人と野生動物との境界線や課題を踏まえ、野生動物への認識や適切な距離のとり方について正しい理解をもった野生動物インタープリターの育成にも取り組むなど 経験・知識豊かな講師陣とともに、現代の社会状況にあった研修を随時実施します。

- 獣害対策のキーマンー野生動物インタープリター研修(2010年度～)
- エコツーリズム地域コーディネーター養成講習会(2008年度～)

(3)地域・事業者支援

地域の魅力を引き出し活かすエコツーリズムの推進のため地域にあわせた支援を行います。

- MATAGIプロジェクト(野生鳥獣の革利用の推進)

(4)災害復興支援

当センターのネットワークがもつ災害支援活動ノウハウを最大限に活かし、迅速な支援や復興エコツアーを通じて復興を支援しています。

(5)エコツアー保険

加盟団体2015年度66団体。

(6)エコツアー

エコツアーの楽しさを多くの人に実感してもらうために、独自のツアーや協賛ツアーを実施。

- 大人の革工場見学<狩猟捕獲による排皮利用の促進工場の見学会>(2012年、2013年11月、2014年5月)
- ライフモデルツアー(2014年10月)
- 野生動物との共生を探る ツアー(青森県白神山地2012年1月、9月／神奈川県丹沢2012年、2013年11月)

(7)その他

エコツーリズムに関する最新情報をさまざまな角度から探るシンポジウムや、気軽にエコツーリズムに触れるトークイベント・エコツアーカフェを定期的に開催。

### ◇その他、受託・共催事業実績

- 農林水産省 田舎で働き隊！(2009～2011年度)
- 神津島エコツアーガイド養成講習会(神津島村商工会、2010～2011年度)
- 群馬県みなかみ市エコツアーガイド養成講習会(みなかみ町商工会2009年度、谷川岳エコツーリズム推進協議会2011年度)
- 静岡県エコツーリズム調査事業(2010年度)、同エコツアーガイド・コーディネーター養成講習会2009年度)
- 経済産業省補助事業：被災地ノウハウ移転事業(2011～2012年度)
- JICA草の根事業「地域密着型自然学校づくりのための人材育成とネットワーク形成プロジェクト」(2012～2015年／山水自然保護センター(中国・北京)共同事業)
- 南アルプス市コーディネーター養成講習会(2013年度～)
- 岐阜県・荘川町コーディネーター養成講習会(2014年)
- 地球環境基金「サステナブルツーリズム国際認証制度の日本導入・普及について」(2014～16年度)

NPO法人日本エコツーリズムセンター

TEL:03-5834-7966 FAX:03-5834-7972 e-mail: [desk@ecotourism-center.jp](mailto:desk@ecotourism-center.jp)

HPアドレス: <http://www.ecotourism-center.jp/>